

患者からみた インフルエンザへの不安と 期待する対策

赤城智美 Akagi Tomomi 新潟県立川口病院のインフルエンザ対策

はじめに

アトピー性皮膚病の子ネットワークでは、毎週3回電話相談を実施しています。主に生活に関する相談を受けていますが、インフルエンザの流行期になると、予防接種を受けることへの不安、喘息の既往症があると重症化してしまうのではないかとという不安、インフルエンザ治療薬のタミフル®、モリレンザ® を使用した際の身体への影響、とくに食物アレルギーがある場合、治療薬の成分に卵や乳成分が含まれていないかどうか、といったさまざまな不安について問い合わせがきます。

本来は主治医に聞くべきことなのですが、流行期はとくに病院が混雑しているため電話の問い合わせがうまくいきません。私たちのところに相談が来ってしまうのではないかと感じます。

予防接種には卵の成分が使われているものもありますが、蛋白質の分子はほとんど壊れておらず、食物アレルギーで卵がアレルギー性食物の人でも、ほとんどの場合は接種が可能だということを知らない人がまだたくさんいます。アナフィラキシーを起こした経験があって微量な蛋白質の摂取も不安だけれど、インフルエンザ対策のための予防接種

を受けたい場合は、分別接種も可能だということも薬剤師の一つとして知っておくといえと感じます。

インフルエンザ対策に関心したことではないかもしれませんが、予防接種をいつどのように受けるかということについても、主治医と日頃から話しておくことができれば、不安はだいぶ解消されると思います。

子どものいる 家族ならではの悩み

幼児から学童期の児童がいる家庭からの相談が多いですが、「通常の風邪とインフルエンザの症状の違いについて知りたい、見分ける方法はないか」という問い合わせもときどきあります。

流行期はできるだけ病院に足を運ばないで、普通の風邪だったら市販薬で対処したい、インフルエンザだったら病院に行きたいという思いがあるのだと思います。喘息や鼻炎などで、定期的に受診し薬を処方せないとダメ、「わがわが病院に行ってインフルエンザにかかるといけないが